まれ、ゆったりと多様な生を試すことができる、そんな『空間』が多くの子どもたちの周りに創られることが、子どもたちの未来を豊かなものにするのではないでしょうか。

（東京都文京区在住）

豊かな自然が私の原点

金井久美子

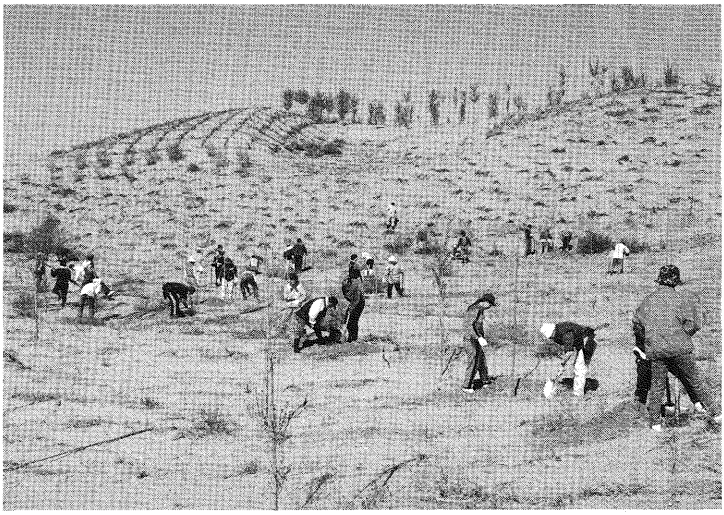
内モンゴル・哈拉薩（ハラサ）にて

夕刻、寝台列車で北京を出発、中国内モンゴル自治区第二の都市包頭市へ向かう。翌朝駅に着き、さらに乾いた大地の中をバスで走り続けること四時間、オルドス高原に位置する人口一万人の町、伊金霍洛（エジンホロ）旗、哈拉薩（ハラサ）へやっと到着です。この地へは年に四、五回、地球緑化センターの植林ボランティアが訪れますが、町の中を緑のバンダナをして歩いていると、現地の人々が「日

本人がまた木を植えに来たの？」と親しげに声をかけてきたり、時にはお茶をどうぞと自宅に招いてくださることもあります。

三十二回目となる今回に「緑の親善大使」の参加者は十代から八十代までの男女三十名。真夏の炎天下、いよいよ植林作業の開始です。三、四年ものの樟子松（赤松）の苗木を現地の人達と一緒に植えます。「何か人の役に立ちたい」「中国で木を植えてみたい」「環境について考えてみた」等、このボランティア活動に参加した三十名の動機はさまざまです。八日間の植林作業を終え、広大な大地に植えた木が元気に育つようにとの願いを込め植林地を後にしました。

日本に戻って二日目、「緑のふるさと協力隊員」として全国の町村に派遣された十七名が東京で合流。昨年四月、中間研修を終え不安そうな表情で各地に向かった隊員が、半年振りに全員集合。日焼けした顔がとても逞しく見えます。この「緑のふるさと協力隊」は、山村で農林業や村おこし事業を手伝いながらさまざまな体験を重ね、山村について理解を



▲ハラサ砂漠で植林作業をする「緑の親善大使」の参加者たち

深めると同時に、自分の生き方や、社会、環境について考えていこうというものです。今回も、大学を出て教師になる前に応募した人や、もう一度自分の生き方を見つめ直そうとする人達が参加しました。

このボランティアに参加することで、今まで受け身で生活して来た人も自分自身で体得したものは何ものにも得がたい経験として、その人の将来の生き方に大きな影響を与えるように思われます。一年後には一人ひとりが心の糧としての第二のふるさとを得て、それぞれの道へ旅立っていきます。その姿を見ることで私は、それまでの苦労をすっかり忘れ、嬉しい気持ちになるのです。

自然と遊んだ子ども時代

私は岩手の大きな農家で生れ育ちました。家では、麦蒔きの後や稲刈りの後は常に二十～三十の人にご馳走をふるまうことが多く、私もよく料理を運んだり、お給仕をしたり、子どもなりに楽しんで手伝っていました。決して生活は豊かではありませんでしたが、十三人家族の中で皆それぞれ役割を与えられ、辛いこともありましたが、今思うとみんな楽しい思い出です。

雪深い冬は、叔父達に教えてもらいながら作った竹スキーやソリで暗くなるまで遊び、春は雪どけの間からふきのとうや福寿草の花が咲き出すと、寒さから解放される喜びを強く感じました。また、秋には堆肥に使うため集めた落葉の山の中にもぐってみんなで遊ぶなど、わが家は近所の子ども達の遊び場であり、いつも遊ぶ裏山の雑木林には私たちにとってたくさんの宝物がありました。幼い頃自然の中で体得したことは今でも心の中に深く刻み込まれています。私にとって、豊かな自然の中で暮らした経験は大切なものであり、現在の仕事の原点でもあると思います。

また、上京して間もない学生の頃、八百屋の店先に並んだ柿の前で食べたそうな表情で立っていると

友人から「柿が好きなのにどうして買わないの？」と聞かれたことに対し、「小さい頃、木に登って柿をもいで食べていたので、どうしてもお金を出してまで買おうと思えないの」と言って大笑いされたこともそんな自然の中で育ったことに由来するのでしょう。

緑、人を育む

今、自然環境は「ＳＯＳ」を発しています。また、暮らしは豊かになりましたが、人の心は悲鳴をあげているようにも思えます。最近、ＮＧＯ活動にさまざまな人たちが参加するようになってきました。参加した人たちの動機をみると、年代によって違いはありますが、みんな心の充足を求めていることが感じられます。十代の参加者は親に勧められて、二十代は将来の進路を模索しながら、四十代は別の生き方を求めて、五十代、六十代は定年後の生き甲斐探し、等々。

環境が地球にさまざまな問題を投げかけているのと同じように、私たち人間の心にもいろいろな変化が起こっています。今の時代、一方にどうにかしなければならない環境問題があり、一方に充足感を求めて活動したい人間がいる。地球緑化センターが掲げる「緑、人を育む」とは、一生懸命に緑を植えて育てることがすなわち人を育むという意味です。

ボランティア体験を通して自分を発見したり、学ぶことによって人は成長していくものだと思います。私自身も育った環境から多くの影響を受けてきました。植林ボランティア活動に参加してくださる多くの人たちとの出会い、また、緑を通じてのさまざまな分野の人たちとの出会いは大きな喜びです。今私は、家族も含めて多くの方々に支えられながらこの仕事ができることに誇りを感じています。

（地球緑化センター）